うしく里山の会 広報誌

さとやま

Ｎｏ．４６（２００６年１２月号）

NPO法人 うしく里山の会

事務局　〒300-1236　牛久市田宮町808-20
TEL 029-801-2500（代表　坂 弘毅）
E-mail u_satoyama@infoseek.jp
HP http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/

プロジェクトからのお便り

つるでカゴを作りましょう！！

（雑木林応援隊活動報告：飯田雅俊）

昨年の好評につづき今年もおこなった。昨年の実績を元に申込期間を短く１週間にしたら、１日目で１３名、２日目で定員になった。妻が主に電話の応対に出たが１日目は、次から次と大変であったらしい。ホームページにも掲載したが、すぐに申しもみ締め切りと書き加えていただいた。

１０月２２日晴れ、原口講師のもと始める、事前の日曜日に数人で集まってつるを集めておいたが、どんなところにつるがあるのか知っていただくためにも、近くの藪に入ってつるを集める、皆さん楽しんでいるようで以外であった。

はじめに３本ずつを十字に置き、3 本束を編んでいくと始まる、出だしで戸惑う人が多く、会員の方がサポートしてあげている。午前中におおよその方がカゴの形ができていた。今年は初めて私も挑戦した、作っている途中で他の方と比較して自分でも恥ずかしくなってきている時に、向いてないネと言われてショックだった、不器用でセンスを持ち合わせていないのを再確認した。

昼食は、雨宮さんの朝取り野菜がたくさん入った味噌汁で昼食、秋晴れの野外という味付けも加わり、最高の昼食でした。昼食後に仕上げて、帰ってまた作りたいとの希望者と一緒に、もう一度やぶに入ってつる採りをおこない、２１名の参加者全員がカゴを持って家路に着いていただいた。会員の皆さんご苦労様でした。

下記に２名の方から感想をいただいたので報告いたします。

大変有意義な一日でした。かご作りは全く初めてだったので最初はどうなる事かと思いましたが、スタッフ、参加した皆様の「おほめの言葉」のおかげで何とか形になりました。蔓かご作りの魅力はなんと言っても自分の思いどおりにならないところ。蔓は一本一本太さや色が違い、おまけに一本の蔓でさえ曲がり方が場所によってまちまちです。最初から曲がっているのだから真直ぐなかごができるはずもなく予想外のかごが完成しました。でもそれが良いのです。左右対称のキチンとした物ではなく不恰好なかごだからこそ愛しいのだと思いました。自然の一部を分けてもらった気分です。

かご作りももちろん楽しかったのですが、お昼ご飯もすばらしいものでした。超具だくさんの味噌汁、大根の葉の塩もみ、じゃがバタ、ブロッコリー、一見質素に見えますが緑の中で頂けばフルコースです。お土産にいただいた冬瓜は味噌汁に、蔓はクリスマスリースとかごに大切に使わせて頂きます。里山の会の皆様本当にありがとうございました。

田辺　明子（一般参加）

つるでカゴを編む

以前から興味はあったものの、まったく未経験のため、いざつるを手にしても、どんなカゴを編みたいのか----？？。そうだ、じゃがいもや玉ねぎをかごに入れて台所に置いたらおしゃれかも！！。あたまの中にじゃがいもを浮かべながら、さっそくつるを適当な長さにカット、十字に組んで、やわらかいつるで編み始めたが、たちまちわからなくなってしまいました。私がつるを持ってうろうろしていると、里山の会の方が、すかさず親切に教えて下さいました。そのあとも、少し編んでは聞き、又少し編んではみてもらいして、とうとう完成しました、う～ん思ったより大きいし雑な仕上がり。

すると、又すかざず「でも、味があっていいのよ」とのお言葉、感謝。そう言われれば、けっこういいかも。そこで一息ついて、他の方の作品を見たら、皆さんずっと丁寧だし、センスもいいものばかり。やっぱりちょっと雑だったナと、反省しました。

その後の昼食のおいしかったこと！！。　ふだん好き嫌いばかりの我が息子どもも「これは何のお芋かなー」と言いながら、具沢山の味噌汁をペロリ、自分でおかわりをしていました。野外で、大勢で食べる食事は格別ですね。ご馳走様でした。

辻井伊久美（一般参加）

井戸掘り

事前調査の資料もあり、井戸掘り器の先端部はできているのだから、深さにあわせてつなぐφ20mm の塩ビパイプと継ぎ手が必要と考えていたときに、石塚さんから電話があり、塩ビパイプがあるから見に行こうとお誘い。軽トラに同乗し出発、近所の人しか知らない道を走り、着いたところが小型の別荘といった感じの建物があり、笠間のクラインガルテンのような秘密基地。

φ120mm の塩ビパイプがありこれで掘ると言う、私がインターネットで見たのはφ40mm、50mm あるいは 75mm までであり、こんなに太いのは見たことがない。すでに動き出している人を止めるには、それ以上の運動量が必要であり、私にはそんなエネルギーはない。その後ホームセンターで継ぎ手などを買いに行き、制作は石塚さんのお任せした。

次回活動日に出来上がった井戸掘り器で掘り始める。周りの土が崩れないよう円いオイル缶の底に穴をあけ地中に埋めた。缶底の穴に塩ビパイプを建て人力で上下に突き刺しながら塩ビパイプに入った泥水に混じった土を掘り上げていく。土砂が落ちないように先端近くに逆止弁（これが味噌）が付いている。孔の中には土砂が柔らかにするためと孔壁が崩れないように水を補充する。

4m くらい掘ったら水を補給しなくとも地下水が出てきた。砂を手にすると冷たい。感激である。1.5m で出てくるはずであったが、地盤の高さも違うのだろうと考える。φ120mm で高さが 80cm の中のパイプに水混じりの砂は重く、やぐらを立てて全員で引く。これが繰り返しの重労働、滑車を２個つけて水平に引けるようにする。滑車の数と物体を持ち上げる力、理科の授業を思い出す。およそ６m掘りあげたが、しかし水を汲み上げるのにポンプを買う資金もなし、江戸時代の長屋の井戸のように、つるべ取られてもらい水では大変であると考えていると、太田さんが手押しポンプを持っているよと言う。どこに何があるか、どこにどんな人がいるかわからないものである。次回持ってきていただけることを快諾していただき今日は終了とした。

雑木林畑隊活動報告　（報告：小野寺拓郎）

切り株の始末

雑木林の中の活動に立木の「間伐」という作業があります。これは、良質の木材を得るために不要な立木を伐採することで、古来より行われております。

伐採すれば切り株が残ります。伐採時は倒木の始末、枝落し、搬送など多くの作業がほぼ同時進行しますから、切り株の始末まで手が回らないのが普通です。残った切り株ですが、これが「森」内で利用者の散策する場にあれば、つまずいたりして思わぬ事故につながりかねません。このような事故を防ぐ方策としては、切り株を地表以下にすることが求められます。

写真（１０月撮影）は、こうした考えから、隊員が切り株を地表高まで切り戻した後で、新芽が発生したものです。周囲が秋一色の中で、若々しい芽は、切るには忍びがたいのですが、切らねば間伐の主旨に背き、事故を呼ぶことになります。眼をつぶって（本当はあけて）切り除きます。この作業を２～３回繰り返せば、伐採木の根も土に還るはずです。

ハチとり器の効用

夏から秋にかけてはハチに刺される事故が多い時期です。国内では毎年、約２０人の人がスズメバチに刺されて亡くなっているそうです。こうした事故を未然に防ぐため、私たちの活動の場に「ハチとり器」※を設置し続けている人があり、その成果でしょうか、今年はこれまでハチの事故は聞いておりません。これはとり器の設置と共に、昨年の事故例から私たちが学んだ結果とも言えそうです。

私たちの活動の場は、森に限らず川や湖など多くの面にわたりますが、そのすべての面に潜む危険－事故の防止策は立てようがないでしょう。活動にあたっての防止策は、基本的には活動する人個々人の体験と学ぶ姿勢にあり、それを側面から支えるのがハチとり器の用具や手法にあるのではないでしょうか。

※ハチとり器の左肩にカマキリが困惑しています。発見当初は、とり器の入り口で、内部からもれる香りに魅せられて近づく虫を捕食すべく待ち構えていたのですが、思わぬところにカメラを向けられ後戻りしたものです。

里山植物観察会　（里山観察隊・活動報告：高野美栄子）

里山の草木の果実をみる「城中地区」

集合時間に調度雷と大雨が降った為参加者は４人だけとなってしまい寂しい観察会となりましたが皆さん普段１人歩きしているほど植物好きな人たちなので、雨が降ったり、やんだりの中の観察会となりました。今年は全般に実の付きが悪く華やかな実りの秋を歩くほどではないのですが、さすが渡辺さんの解説となると、辺りに沢山の実が有る事に気付きます。

「果実と種」種子植物の花が発達してできる器官の一般的な呼び方で、花を構成しているどの器官から作られても果実という。普通、開花、受粉、受精の後にガク、花弁、雄しべは枯れるが、雌しべの子房が発達して果実となるものが多い。果実の内部には受精した胚珠が発達して種子が出来る。果実のなかで、発達してできた果実を真花といい子房以外の花托、ガク、などが発達してできたものを偽果として区別することがあるそうだ。なんとなく判ったようなようなつもりで観察してきたが、食べるのは果実で吐き出すのは種。柿の種というせんべいはあるが、、、。林縁のアオキ、マンリョウ、ヒサカキ、シラカシ、シロダモ、カヤ、ヒイラギ、「大木になると鋸歯がなくなる」イヌツゲ、ムクの実（上写真）はおいしいです。タンポポのような種のベニバナボロギク、アキノノゲシ、「菊科：痩果」ヤブマメ「豆果」栗「堅果」モミジ「翼果」他果実にも色々分類があるようです。はからずも今回は美しい実「果実」と種について沢山の植物に出会いしっとりした秋の里山観察会となりました。

１２月の観察会はありません。

里芋とサツマイモの収穫祭　（じゃがいもプロジェクト活動報告：横山さえ子）

収穫期を迎えている「じゃがいもプロジェクト」（里芋、さつまいも）と「そばプロジェクト」は、広く一般から親子の参加者を募って行われています。この活動は、土に親しみ自然とふれ合う機会を子供に提供したいという思いから出発しています。

小さい時の土いじりや虫などの生き物と遊んだ経験は、子供の心身の成長にはとても大切です。そしてこれは親が提供しなければなかなかその機会は得られません。この主旨がちょうど国や、県が青少年の心の育成事業として展開している「親が変われば子供も変わる」運動に合致したことから、運動推進モデル事業として１１月４日「里芋とサツマイモの収穫祭」が行われました。今回の里芋とサツマイモの収穫に小二と４歳のお子さんと参加した神立佐知子さんより頂いたの感想を抜粋して紹介します。

里山でのひととき　神立　佐知子（一般参加）

先月は里いも掘りを体験させて頂きありがとうございました。
ちょうど４才になる子がいも掘りをやりたがっており、どこかで体験できないものかと探していた矢先で、楽しく小二の長男と３人で参加させていただきました。

兄の方は学校等でいも掘りをしたことがあっても一人１～２苗しか掘れず、今回のように「もっと掘っていいよ！！」といわれたことが大変うれしかったようでした。本人は「さつまいもと違って里いもが、こんなにくっついていて、ゴリゴリとねじり取るとは思わなかった。固くて大変だったけれどおもしろかった。またやりたい。」

私自身も里いもの知識はあっても実際に掘ったのは今回が初めてでした。葉の大きさと高さに驚き、茎を切ったところから滴る汁の多さに生命力を感じ、よく肥えた土のやわらかさ、温かさを感じました。大地の息吹。皆さんが１年間、苦労をかけて作った作品１つ１つに感動しました。

土を掘ると出てくる様々な生き物に、いも掘りを忘れ夢中になりました。軍手でしたが生き物に触れられたことの喜び。なぜ土の中にいたのか、疑問。すべては机にむかっているだけでは分からない、本当の教育がそこにはあるように思えます。

そして食育。いや、食欲かな？自分で掘ったいもはいとおしいらしく、次男の方はさつまいもをカゴに入れられず、ＭＹいもを並べいつまでも監視している姿に思わず目を細めました。普段は偏食が多く、今回も食べられないだろうと思っていましたが、おなかが空いてるところに頂いた一口の焼いもは、とてもおいしかったらしく、「もっと！」。持ってきた自分用の小さなおにぎりを２つをペロリと平らげ、大きなおにぎりを１つ半。カレーうどんは「おかわり！」の催促に、もう一鍋作って頂いた程でした。「カレーは辛いから食べない！」と言っていたのがウソのよう。その場で頂くおいしさには魔力があるようです。

また、里山では一般的な“かまど”。炭火で火をおこし食事の支度をする風景に、２人とも興味を持ったようでした。我が家ではＩＨ。火の怖さは度々教てきましたが、今回のことで、特に下の子は「火は熱い、怖いね。」と実感してくれました。上の子とは、戦後ついこの間までよく見られたこの風景に、昔と今との違いを語り合いました。何ともぜいたいくな時間。家ではバタバタと一日が終わり、いつも怒ってしまう子ども達と、いつもと違う時間を共有することのできた喜び。土にふれる楽しさはもちろん、忘れかけていたゆっくりモードで生活することで、子どもと向き合い、語り合う時間を作り出す、現代社会の中でまさに必要ことを里山は教えてくれたように感じます。

たった半日でしたが、この貴重な体験を今後の子育てに生かしたいと思います。皆様本当にありがとうございました。

今月の巨木「島田町のムクノキ」　（巨木リサーチ：総務）

毎月「巨木・古木・希少木リサーチ」の対象になった地域の銘木をお伝えします。

樹高　　２３ｍ
幹周　　５．８０ｍ
樹齢　　推定５００年
所在地　牛久市島田町１７２７－３　（永沼氏所有）

関東以西の暖地に自生する落葉高木です。朝鮮半島から中国大陸にも分布している樹木で幹は灰褐色、葉は卵形で縁のギザギザは鋭く、枝は横に広がる性質を持っています。

材は割れにくいので、昔は天秤棒・農具・下駄の歯・櫛などに利用されていました。

ムクノキには、御信名様（おしんめいさま）（蚕の神様）が祭られており、永沼家では御神木として大切に守ってきました。　―「市民の木」案内板より―

写真撮影：　戸塚　昌宏

里の観天望気　（森の聞き取りプロジェクト活動報告：坂弘毅）

今回の話は、結束のお年寄りから伺った昔話を検証したものです。
結束村は牛久の中心地から遠く、他の地域との交流も少なかったため、独特の文化・風習を醸成してきました。古くから生活改善も積極的に進め、他の地域で未だに残る伝統文化・風習や深い付き合いもここでは無くなりました。無駄を徹底的に省き、新生活を標榜した当時のリーダーは先見の目があったのでしょう。村の産業はアカマツの薪炭生産を主とし、その傍ら小野川流域の腰までつかるような湿田で稲作が行われていました。この地域の自然環境は、東西に流れる小野川流域の肥沃な土地と流域に沿って広がる平地林が周辺地域とは大きく異なりました。結束の集落（自然観察の森含む）の南側は、不毛の台地と呼ばれた「女化が原」でしたから、結束村のヤマは周辺地域からは羨望の目で見られていたことでしょう。ヤマから出る膨大な量の落ち葉は、農業にとって必要欠くべからざるもので、ヤマが無い取手や藤代の農家からヤマの手入れをする見返りに落ち葉をもらって帰ったということです。この結束の集落はヤマ（平地林）とノラ（田畑）にムラ（集落）の里山の条件を備えた地区で、豊かな農村であったことが伺えます。その農作業で一番注意しなければならない事は一日の天候の変化でした。その多くは「天気俚諺」に出てくる、「ツバメが高く飛ぶと晴れ、低く飛ぶと雨」とか、「雨蛙が合唱を始めると雨になる」等々。しかし、結束には結束の観天望気がありました。その一つに雷による天気予報です。結束の集落を中心にして、三方向から来る雷で、危険度や今後の天候を予測していました。

・ **筑波の雷**（北から来る雷：「女の腕まくり」怖くない雷と言われていました）

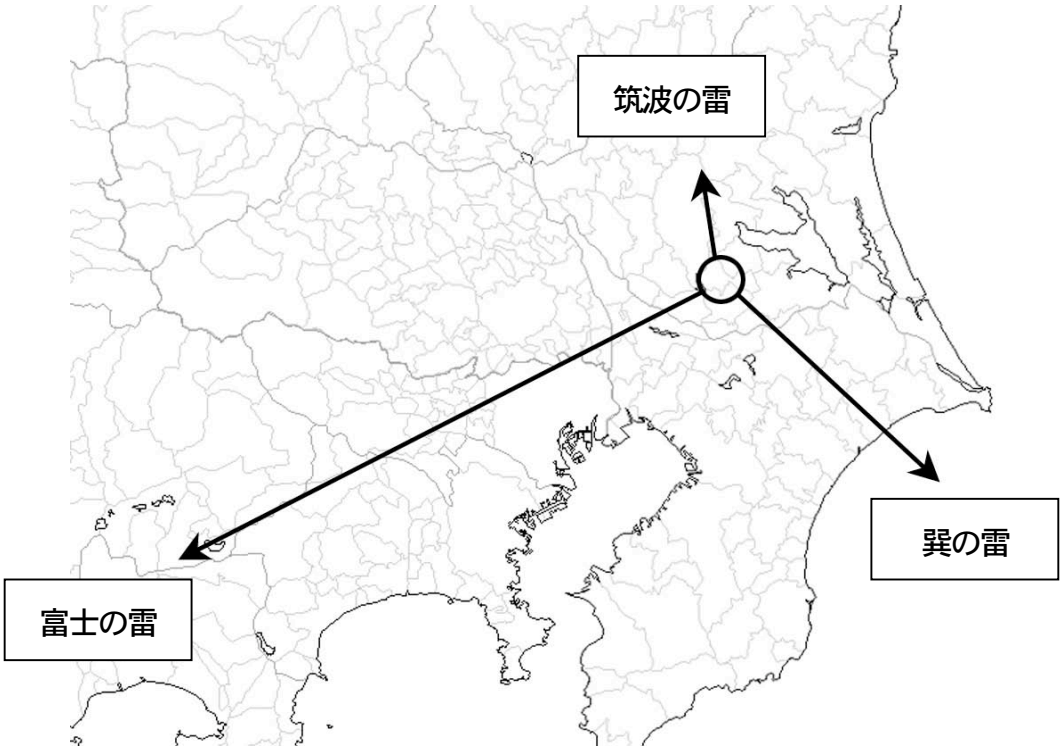
このタイプの雷は「熱雷」と呼ばれ、むし暑い日の午後に発生しやすく、比較的小型の雷雲で、平地部よりも山岳部で発生しやすい・・・筑波山方向で発生）

・ **富士の雷**（南西方向から来る雷：怖い雷で一番注意したと言われています）

この雷は、「界雷」または「前線雷」と呼ばれ、前線付近で発生することからこう呼ばれています。発生する時期は決まっていないため突然の雷で恐れられています。これは梅雨前線や秋霖前線が停滞しているときに前線上を寒冷前線が通過する際に発生するものです。

・ **辰巳（巽）の雷**（南東方向から来る雷：三日続くので農作業に影響を及ぼす）

この雷は「転倒雷」または「不安定雷」と呼ばれ、上空に入ってきた寒気が下層の暖気を押し上げて起こる雷で、寒気が通り過ぎるまで三日くらいかかる雷で、天気俚諺でも「雷三日」と言われる所以です。この雷は本州沿岸に停滞する前線に移動性高気圧がぶつかって発生するものと思われます。



牛久自然観察の森だより

（報告：齊藤レンジャー）

観察の森の省エネルギー対策について

現在、観察の森では電気使用量、公用車ガソリン使用量削減など省エネルギー化推進活動に取り組んでいます。

前期分（４月～９月）のみで比較しますと、平成１７年度と平成１８年度ではかなり効果があがっている様子です。

まずはネイチャーセンター使用電力量ですが、平成１７年度前期が７４８２３ｋｗｈ、平成１８年度前期は６４９４３ｋｗｈと、９８８０ｋｗｈの削減を行う事が出来ました。年によって夏季の冷房使用量は違いますが、４月～９月まですべての月において前年度より使用量を削減する事が出来た事からも成果があがっていることがうかがえます。

続いて公用車＜白い普通乗用車＞については、平成１７年度前期が走行距離１７７６ｋｍ、ガソリン使用量１５２リットル、平成１８年度前期が走行距離９０１ｋｍ、ガソリン使用量７８リットルと約半分削減する事が出来ました。これは市役所職員による連日の庁舎往復が無くなったことが大きな要因で、指定管理者制度導入による省エネルギー化推進の顕著な例となりました。

以上のように指定管理者１年目の観察の森では省エネルギー対策が順調に進んでいます。平成１８年度前期（４月～９月）の入園者数が２６８５３名となり、前年度前期の入園者数１８２６８名を８０００名以上も上回る中での省エネルギー化成功となりました。

さらなる省エネルギー化推進に向け、今後とも来園者の皆様のご協力、どうぞよろしくお願いします！

アヤメ園―労働とおしゃべり

（アヤメ園報告：星加敦子）

１０月の運営委員会で、斉藤レンジャーから「アヤメ園の労働はきつくはないですか？」という質問が出されました。そう、アヤメ園での作業の大半を占める除草作業は、真夏の炎天下の時などは特に、水分及び塩分の補給に気配りが必要なほど“きつさ”が伴うのは事実です。ところが、その“きつさ”より楽しさのほうが上回っているのは何故でしょう？それはきっと、土に触れ、水に触れ、植物や昆虫に触れられることによる開放感に加え、作業をしながらの気の置けないおしゃべりも重要なポイントを占めていると思うのです。手作業の適度なリズムが会話を促し、料理、健康、趣味、駄洒落と話題には事欠きません。近すぎず遠すぎず、そんな話題が心地良さの基本なのかも知れません。民俗学者の宮本常一の「忘れられた日本人」の中でも、田植えをしながらのおしゃべりが娯楽の無かった時代の女たちの唯一の楽しみであったと書かれています。労働とおしゃべり―効率優先の世の中で、おしゃべりにはマイナスのイメージが先行していますが、その楽しさが労働意欲につながることを忘れてはいないでしょうか。

とは言え、刈り払い機の騒音と振動の真っ只中で除草作業されている坂さんや三浦さんは、おしゃべりなんてとてもできる状況じゃ～ないですよね。スイマセン。

樹高の測定をめぐって感じること　（報告：平塚芳雄）

樹の高さを測る樹高グループのメンバーは現在６名。調査日に仕事の都合等で参加できない人もいるので通常、４名前後で測定を実施しています。

実際の測定はリュッデという器具を使って行っています。これは三角法の原理を応用したもので、測定者の樹の先端への視線と根元への視線で４５度の角度を作り出す測定地をリュッデを使って確定し、樹の根元からその測定地点までの距離が樹の高さに等しいと見なすものです。

実際の測定現場では周囲の状況から、樹の先端と根元の両方を同時に見通せて、根元から樹の高さに相当する距離のある場所を確保することが難しく、工夫・努力が必要です。この距離の確保の制約の解消策としては、メンバーの田澤さんが考案した方法（樹の根元から測定地までの距離と測定地での仰角から樹の高さを算出）も兼用しています。

１０月１日までの調査活動で「市民の木」３１本の測定を行いましたが前回より測定結果が低く出たり（６本あり内、３本は風雪による折損や伐採を確認）、周囲の環境条件の厳しさから測定が十分に出来なかった木もあったりで、測定環境が改善される冬場の落葉期に再測定することも含めメンバーで対応を協議したいと思ってます。

人は巨樹・巨木を見ると感動の気持ちが湧いてきます。その樹の生きてきた長い歴史を感じるからでしょうか？　地球上で１番大きい（体積・重量・高さ）生物は樹木であると聞きました。北アメリカにあるセコイアメスギの高さは１１０ｍもあり、日本で１番高い樹はスギの木で６０ｍ前後はあるそうです。牛久市の「市民の木」は皆４０ｍにも達しませんが、それぞれの地で数百年風雪に耐えて生き抜いてきた様を見せているのだと思うと自然と畏敬の念が湧いてきます。

渡辺代表による調査活動時の樹木解説で理解も深まり、益々樹木に愛着が感じられ、私達の住む牛久の地がこれら樹木を更に長生きさせる環境であって欲しいとの思いを強くしています。

樹高グループ・メンバー一同、今後とも楽しみながら巨木リサーチを続けていきたいと思っています。

（※写真：樹高Ｇの測定結果の検討風景、撮影者：増田勝彦、撮影場所と期日：正直町皇産霊神社・８月６日）

今月の運営委員会よりおしらせ　　平成１８年１１月１９日

＜議席数１８名のうち１１名出席。１／２以上の出席＞

来園者増加に伴うお願い

観察の森第１駐車場を各事業の集合場所として利用＆駐車、園外で半日以上活動する場合は、一般の来園者が駐車し易いよう、駐車は梅林寄り（奥）にお願いします。（既にご協力いただいていた皆様、ありがとうございます！）

ありんこくらぶよりお知らせ

◎新作登場です！

昨秋人気を博したジュズ玉とドングリのアクセサリーの新作サンプルを作りました（下の写真）。１１月の運営会議でＯＫが出ましたので近日中にありんこコーナーにデビューです。

◎ 会員のみなさんへありんこくらぶからお願い

野山を歩く時ありんこくらぶで加工するドングリなどの材料を集めていただけませんか！一ケ所で集めるとせっかく実をつけた木に申し訳ないので、いろんなところから少しずつ集めようとするといくらも集まらないんです。とくにマテバシイのドングリ、ジュズ玉を…。丸山に御連絡下さい。0297-66-4876（くれぐれも乱獲されませんように！御存じと思いますが観察の森では採集禁止です。）

12月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので，ホームページ等でご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 ○そばＰ 9:30観察舎 （雨天時：NC）
3 ○巨木古木ﾘｻｰﾁ(受 9:00市役所玄関	4 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	5	6 ○雑木林畑隊 13:00畑	7 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	8 ○雑木林畑隊 13:00観察舎畑	9 ○巨木古木ﾘｻｰﾁ(受 13:30栄町区民会館 （会報等原稿〆切）
10 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ ○里山聞き取り 9:00NC	11 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	12	13	14 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	15 ○ありんこ集計 13:00NC	16
17 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○広報11:00NC	18 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	19	20 ○雑木林畑隊 13:00畑	21 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	22 ○雑木林畑隊 13:00観察舎畑	23 天皇誕生日 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋
24 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	25 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	26 （休園日）	27 会報発送作業 13:00NC	28 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	29 （休園日）	30 （休園日）
31 （休園日）						

森：観察の森，　NC：観察の森ネイチャーセンター，　（受）：受託事業，　Ｐ：駐車場，　（休園日）：観察の森休園日

会報原稿募集中！

会報「さとやま」の原稿を募集しています。各プロジェクトや特別事業からの報告、「さとやま」にふさわしい情報などをお送りください。

原稿は４００字詰め原稿用紙２枚（Ａ５）、または４枚（Ａ４）の分量でお願いします。テキスト（手書き可）をメール、または郵送でお送りください。写真がある場合はプリントまたは画像ファイルもお送りください。（写真を含む記事はそのぶん文字数を減らしてください。）記事送り先は下記です！

牛久自然観察の森　久保庭敦男
メール　skyranger-mori@u-satoyama.jp
300-1212
牛久市結束町 489-1 牛久自然観察の森

編集後記・・・・

もうすぐクリスマス＆お正月ですね！みなさんはどんなふうに過ごされるのでしょう？クリスマスは冬至の祭りで、この日あたりから太陽が顔を出している時間がだんだん延びてくるというという意味があるそうです。サンタさんが赤い服を着るのは太陽の名残なのですね。クリスマスツリーを飾りますが、あれは古代北欧ケルト人の文化で、キリスト教よりも古い慣習だそうです。

クリスマスツリーの日本バージョンが、神社のしめ縄を巻いた大樹「ご神木」に当たります。年が明けたら初詣に出掛けられる方も多いと思いますが、ぜひこの大樹に手を当ててみてください。なんとなく、大樹が私たちに何かを語りかけてくるような気がしませんか？

（記　安村）

次号（２００７年１月号）の印刷発行は１２月２７日午後１時を予定しています。お手伝いいただける方を随時募集してます！編集担当者にご連絡ください。よろしくお願いします。

会報さとやま　２００６年１２月号（発行・ＮＰＯ法人うしく里山の会）
事務局　300-1236 茨城県牛久市田宮町８０８－２０　　電話０２９－８０１－２５００（代表　坂弘毅）